



学習指導案例

最終話「桃太郎」裁判

番組が33分間あるため、学校で視聴をする2単位時間を想定した指導案例(A)と、GIGAスクール環境を生かし、事前に家庭で視聴してくることを想定した1単位時間の指導案例(B)を用意している。

学習のねらいと、学級の実態に応じて、指導案を選択し、番組を活用していただきたい。

学習指導案例 児童の実態に即して選択を		学習のねらい		
		情報モラル教育 デジタルシティズンシップ教育 (総合的な学習の時間・学級活動)	情報モラル教育 デジタルシティズンシップ教育 (道徳)	生命尊重 (人権教育) (道徳)
番組視聴	学校で	パターン1A	パターン2A	パターン3A
	家庭で	パターン1B	パターン2B	パターン3B

学習指導案例の基本構造

指導案例(A) 学校で視聴・2コマ構成	1コマ目: 番組視聴+自分の意見をまとめる(フォーム) 2コマ目: テキストマイニングで共有し、テーマについて考え議論する時間に
指導案例(B) 家庭で視聴・1コマ構成	(家庭で): 番組視聴+自分の意見をまとめる(フォーム) 1コマ目: テキストマイニングで共有し、テーマについて考え議論する時間に

パターン1 情報モラル・デジタルシティズンシップ教育(総合・学級活動など)

ねらい

SNS上での書き込み、またSNS上の書き込みを基にした噂話をもたらす問題点を考え、SNSとのよりよい付き合い方を考える。(情報モラル教育・デジタルシティズンシップ教育)

指導に当たっての配慮事項・留意点

【番組内容と児童の実態】

番組内では、SNS上の書き込みやその噂話によって嫌な思いをしてしまう人物が登場するため、同じような思いをしている子や家庭がないか、十分な配慮が必要である。

【教育課程上の位置づけ】

「情報モラル教育」の一環として、学校の実態に合わせて「学級活動・総合的な学習の時間」などに位置付けて実施するとよい。また、参観日などを活用し、保護者とも連携しながら「情報モラル教育」を進めていくことも大切である。

【事件の取り扱い】

原因がどうであれ、犯罪を起こすことを容認するものではないという前提で学習を進めていくことが必要である。こうした悲しい事件を起こさないように、「SNSなどの情報のやり取りで私たちが気を付けられることは何か」という未来志向で、教材を活用し、考える機会にするとよい。

学習指導案例

1コマ目	A(学校で視聴)	B(家庭で視聴)
0(3)	1. 導入 ・SNSにまつわる事件で知っていることはありますか？ ・情報モラルについて考えていくというのが学習テーマを共有する。	1. 事前指導(学校orオンライン) ・番組視聴の方法と視聴する回を伝える。 ・視聴後にタブレット端末で意見を記入し、提出することを伝える。
3(33)	2. 番組視聴(教室 大型TV等)	2. 番組視聴(各家庭)
36(4)	3. 感想の交流と論点の整理	3. 意見を記入・提出【googleフォームなど】 ・どうしてこのような事件が起きてしまったと思いますか。 ・このような事件を防ぐために、私たちが気を付けた方がよいことは何でしょう。
40(5)	4. 意見を記入・提出【googleフォームなど】 ・どうしてこのような事件が起きてしまったと思いますか。 ・このような事件を防ぐために、私たちが気を付けた方がよいことは何でしょう。	

2コマ目	学習活動	教師の支援
0(3)	1. あらすじと論点の確認	・場面絵などを用いて、概要を確認する。
3(5)	2. 意見共有	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストマイニングでの分析結果やフォームの回答結果などを共有する。 ・意見を見ながら、教師がその中からキーワードを示し、意見を交流するとよい。
8(7)	3. 話し合いながら、問いをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の実態に応じて、問いを適切に設定する。 例「悪口を書いてしまう気持ちを抑えるには。」 例「SNSをよりよくつかうためには」 例「こういう状況を止めるためには」 例「傷ついた子を守るためには」
15(20)	4. 問いについて、議論する ・どうしてこのような事件が起きてしまったと思いますか。 ・このような事件を防ぐために、私たちが気を付けた方がよいことは何でしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の協働編集機能を生かし、シンキングツールなどを活用して、少人数で議論するとよい。 (学級の実態に応じて、教師がコーディネートして学級全体で考えてもよい。)
35(5)	5. 本時を振り返り、それぞれが自己宣言と気を付けたいことをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・私は～に気を付けて生きたいという宣言のような形で掲示して、振り返りに活用するなど日常化につなげたい。
40(5)	6. 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSによる事件の被害者、遺族の声などを紹介し、今後の取組の必要性を感じさせたい。

パターン2 情報モラル(道徳)

ねらい

SNS上での書き込み、またSNS上の書き込みを基にした噂話など、日常で起こりうる道徳的な問題に気づき、善悪の判断、自分の責任ある行動や相手を大切に思う思いやりの大切さなど、多面的・多角的に考えながら、自己のよりよい生き方を考える。(情報モラル教育・デジタルシティズンシップ教育)

指導に当たっての配慮事項・留意点

【番組内容と児童の実態】

番組内では、SNS上の書き込みやその噂話によって嫌な思いをしてしまう人物が登場するため、同じような思いをしている子や家庭がないか、十分な配慮が必要である。

【教育課程上の位置づけ】

「情報モラル教育」の一環として、学校の実態に合わせて「学級活動・総合的な学習の時間」などに関連させて位置付けるとよい。まず、そのもととなる心情を育てるため、道徳科に位置付けて実施する。参観日などを活用し、保護者とも連携しながら「情報モラル教育・デジタルシティズンシップ教育」を進めていくことも大切である。

【事件の取り扱い】

原因がどうであれ、犯罪を起こすことを容認するものではないという前提で学習を進めていくことが必要である。こうした悲しい事件を起こさないように、私たちが大切にしていかなければならないこととは何か、という未来志向で教材を活用し、自己の生き方について考える機会にするとよい。

学習指導案例

1コマ目	A(学校で視聴)	B(家庭で視聴)
0(3)	1. 導入 ・SNSにまつわる事件で知っていることはありますか？ ・情報モラルについて考えていくという学習テーマを共有する。	1. 事前指導(学校orオンライン) ・番組視聴の方法と視聴する回を伝える。 ・視聴後にタブレット端末で意見を記入し、提出することを伝える。
3(33)	2. 番組視聴(教室 大型TV等)	2. 番組視聴(各家庭)
36(4)	3. 感想の交流 ・桃太郎も、鬼もかわいそうだった。 ・こんな風に考えたことがなかったから、とっても悩む。 ・どっちが悪いのか、すごく迷った。	3. 意見を記入・提出【googleフォームなど】 ・登場人物のみんなに足りなかったことって何だろう。 《考える視点》 ①桃太郎、おじいさんおばあさん、鬼、村の人という登場人物 ②内容項目(道徳教科書に記載)
40(5)	4. 意見を記入・提出【googleフォームなど】 ・登場人物のみんなに足りなかったことって何だろう。 《考える視点》 ①桃太郎、おじいさんおばあさん、鬼、村の人という登場人物 ②内容項目(道徳教科書に記載)	

2コマ目	学習活動	教師の支援
0(3)	1. あらすじと論点の確認	・場面絵などを用いて、概要を確認する。
3(5)	2. 意見共有 ・相手のことを思うことをSNSでも忘れないようにしなきゃいけない。 ・噂を広げたり、それで人を傷つけているかもしれないから、気を付けたい。	・テキストマイニングでの分析結果やフォームの回答結果などを共有する。 ・意見を見ながら、教師がその中からキーワードを示し、意見を交流するとよい。
8(7)	3. 話し合いながら、問いをつくる	・学級の実態に応じて、問いを適切に設定する。 例「誰も悲しまないためには、どんな心を大切にするとよいのだろう。」 例「どんな心があれば、事件が起きずに済んだのかな。」
15(22)	4. 問いについて、議論する	・タブレット端末の協働編集機能を生かし、シンキングツールなどを活用して、少人数で議論するとよい。 (学級の実態に応じて、教師がコーディネートして学級全体で考えてもよい。) ・板書には「内容項目ごとに整理」をして構造的に示すとよい。例えば、【思いやり】【礼儀】【節度節制】【善悪の判断】【友情信頼】など、多面的多角的に情報モラルをとらえられるとよい。
37(5)	5. 本時を振り返り、自分が今後大切にしていきたいことを整理する。	・SNSの使い方というよりも、どういう気持ちを大切にしていきたいかに目を向けさせて考えを整理させたい。
42(3)	6. 教師の説話	・SNSによる事件の被害者、遺族の声などを動画などで紹介し、一人一人の生き方を見つめさせたい。

パターン3 生命尊重(道徳)

ねらい

番組の内容について、「SDGs」や「世界で起きている紛争や戦争」「いじめ問題」などに関連させながら、多面的・多角的に考え、正義と生命尊重の関係性を捉え、自己のよりよい生き方について考える。(生命尊重)

※「人権教育」「国際理解教育」とも関連

指導に当たっての配慮事項・留意点

【番組内容と児童の実態】

番組内では、SNS上の書き込みやその噂話によって嫌な思いをしてしまう人物が登場するため、同じような思いをしている子や家庭がないか、十分な配慮が必要である。

【教育課程上の位置づけ】

「SDGs」「人権教育」「国際理解教育」などに関連させて、道徳科に位置付けて実施する。参観日などを活用し、保護者とも連携しながら「道徳教育」を進めていくことも大切である。

【事件の取り扱い】

原因がどうであれ、人の命を奪うことは容認できるものではないという前提で学習を進めていくことが必要である。世界的な視野で「人命を奪うようなこと」がおきないように、私たち地球市民が大切にしていかなければならないこととは何か、という未来志向で教材を活用し、自己の生き方について考える機会にするとよい。

学習指導事例

1コマ目	A(学校で視聴)	B(家庭で視聴)
0(3)	1. 導入 ・世界で起きている「戦争」や「紛争」について、どう思いますか？	1. 事前指導(学校orオンライン) ・番組視聴の方法と視聴する回を伝える。 ・視聴後にタブレット端末で意見を記入し、提出することを伝える。
3(33)	2. 番組視聴(教室 大型TV等)	2. 番組視聴(各家庭)
36(4)	3. 感想の交流 ・桃太郎も、鬼もかわいそうだった。 ・こんな風に考えたことがなかったから、とつても悩む。 ・どっちが悪いのか、すごく迷った。	3. 意見を記入・提出【googleフォームなど】 ・「命」という視点で、考えてみましょう
40(5)	4. 意見を記入・提出【googleフォームなど】 ・「命」という視点で、考えてみましょう	

2コマ目	学習活動	教師の支援
0(3)	1. あらすじと論点の確認	・場面絵などを用いて、概要を確認する。
3(5)	2. 意見共有 ・どんな理由があっても命を奪うことは許されない。 ・殺したいと思うってしまうほどのいやがさせは、よくない。 ・噂話で、ここまでつらい思いをするのは、周りも悪い。	・テキストマイニングでの分析結果やフォームの回答結果などを共有する。 ・意見を見ながら、教師がその中からキーワードを示し、意見を交流するとよい。
8(7)	3. 話合いながら、問いをつくる	・学級の実態に応じて、問いを適切に設定する。 例「命を大切にすることってどういうことだろう。」 例「この事件で人間が見落としていることは何だろう。」
15(22)	4. 問いについて、議論する	・タブレット端末の協働編集機能を生かし、シンキングツールなどを活用して、少人数で議論するとよい。 (学級の実態に応じて、教師がコーディネートして学級全体で考えてもよい。) ・板書には、「何よりも生命が尊重されるべき」ということや「SNSによる人権侵害(心が殺されている)も、決して許されるものではない」ことなどを示し、戦争やいじめなどとも関連させながら、整理していくとよい。
37(5)	5. 本時を振り返り、自分が今後大切にしていきたいことを整理する。	・SNSの使い方というよりも、どういう気持ちを大切にしていきたいかに目を向けさせて考えを整理させたい。
42(3)	6. 教師の説話	・SNSによる事件の被害者、遺族の声、紛争地域を逃れた方の声などを動画などで紹介し、一人一人の生き方を見つめさせたい。